

地域福祉活動の推進について

発表者：辰野町社会福祉協議会
福祉活動専門員 赤羽 紀昭
上辰野区地区社会福祉協議会
会長 小林 辰興

1-1 地区社協ができた背景

高齢化と、地域の希薄化・衰退化

- ・平成12年3月 高齢者の孤立や、地域の希薄化を防ぐことを目的に、**地区社協設立**を各区に依頼。
- ・平成12年4月 介護保険制度施行
町保健福祉課と町社会福祉協議会が、安心して住みよい地域づくりのための意識調査を行ない、区内で高齢者が気軽に通うことのできる介護保険外のデイサービスや住民同士の支え合いが必要との結果が出る。
- ・平成14年2月 町保健福祉課が区長会にて**地区社協設置**を改めて依頼。
- ・平成14年7月 町が地域福祉推進委員会を設置し、**地区社協について検討**を開始。
- ・平成15年1月 油混入事故が発生し、被災した地域では住民同士の支え合いで給水活動が行われる。この時、自主防災組織についても同時に検討が始まる。
- ・平成18年7月 豪雨災害が発生し被災する中で、住民相互の支え合いを改めて実感する。
- ・平成19年 区長会の中で、地域の組織が横の連携を取り活動を行なう**地区社協について**提案。各区に地区社協や、区役員を中心とした委員会ができる。

1-2.地区社協の課題

・失われかけた、地域の横のつながり。

・急激に進む高齢化。

・本来担うべき、町行政や区行政に
限界が来ている。

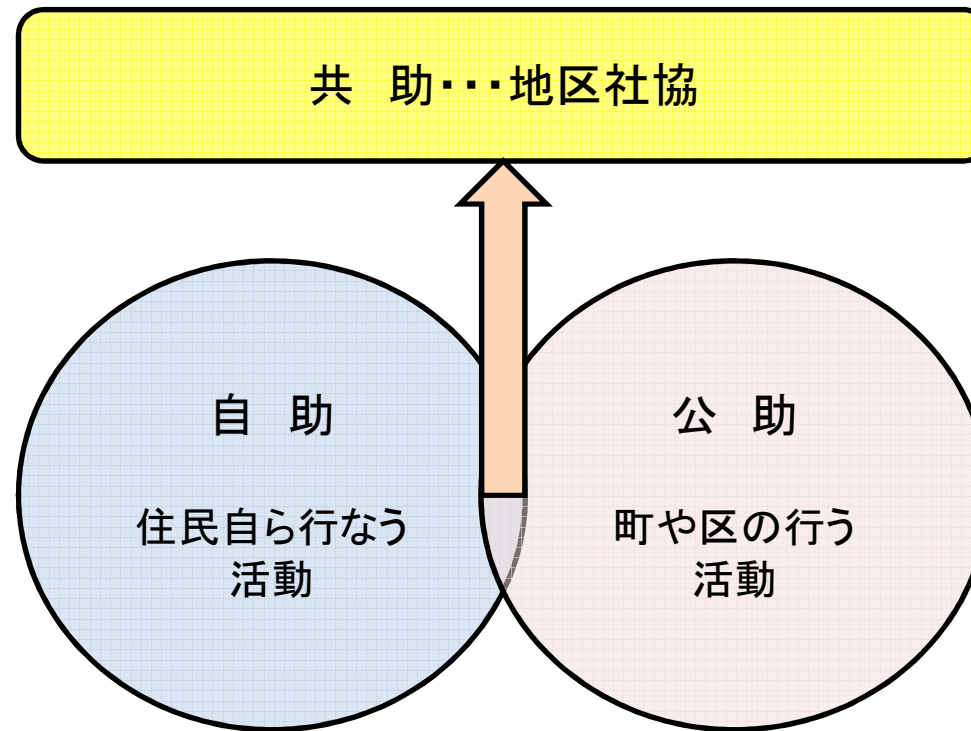
区行政を補う、新たな組織として
地区社協を設置。

2.地区社協の目的

- ①人間関係が希薄になりつつある中、地域の明るいやすらぎのあるまちづくりを進めること。
- ②住民の参加と協力により、身のまわりに起きている生活上の問題について協議すること。
- ③各種の組織が役割と協力体制を取りながら問題解決をすること。

3-1.地区社協が目指すべき姿

- ・地域住民がいつまでも元気で自立した生活を送れることを願い、地域で出来る様々な福祉等の事業や活動を展開していく組織。



3-2.区と地区社協の役割①

区

- ・防 災…
- ・防 犯…
- ・環境整備…
- ・社会福祉…

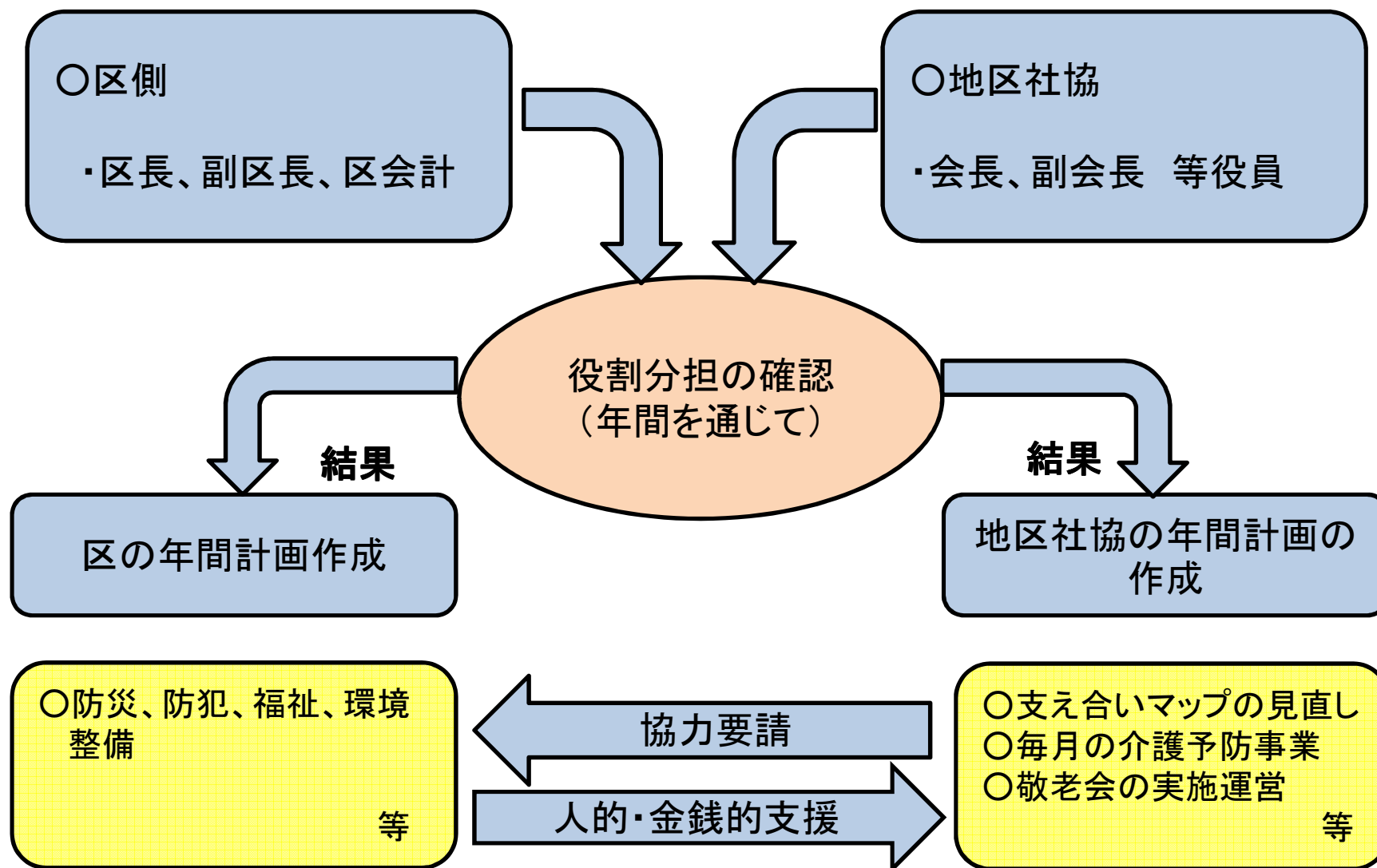
区の活動の中で
社会福祉部門に特化して、
活動を行なう。

地区社協

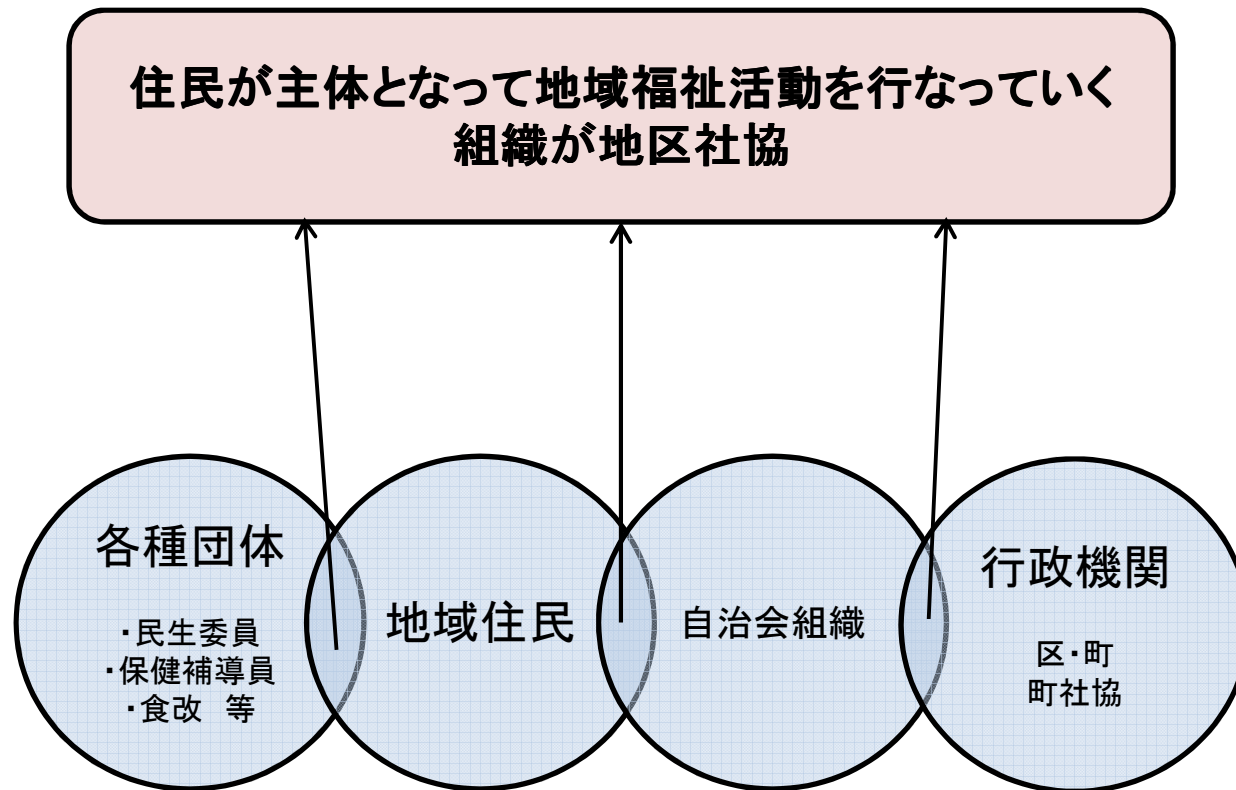
○社会福祉

- ・支え合いマップ作成と見直し
- ・毎月の介護予防事業
- ・敬老会の計画と運営 等

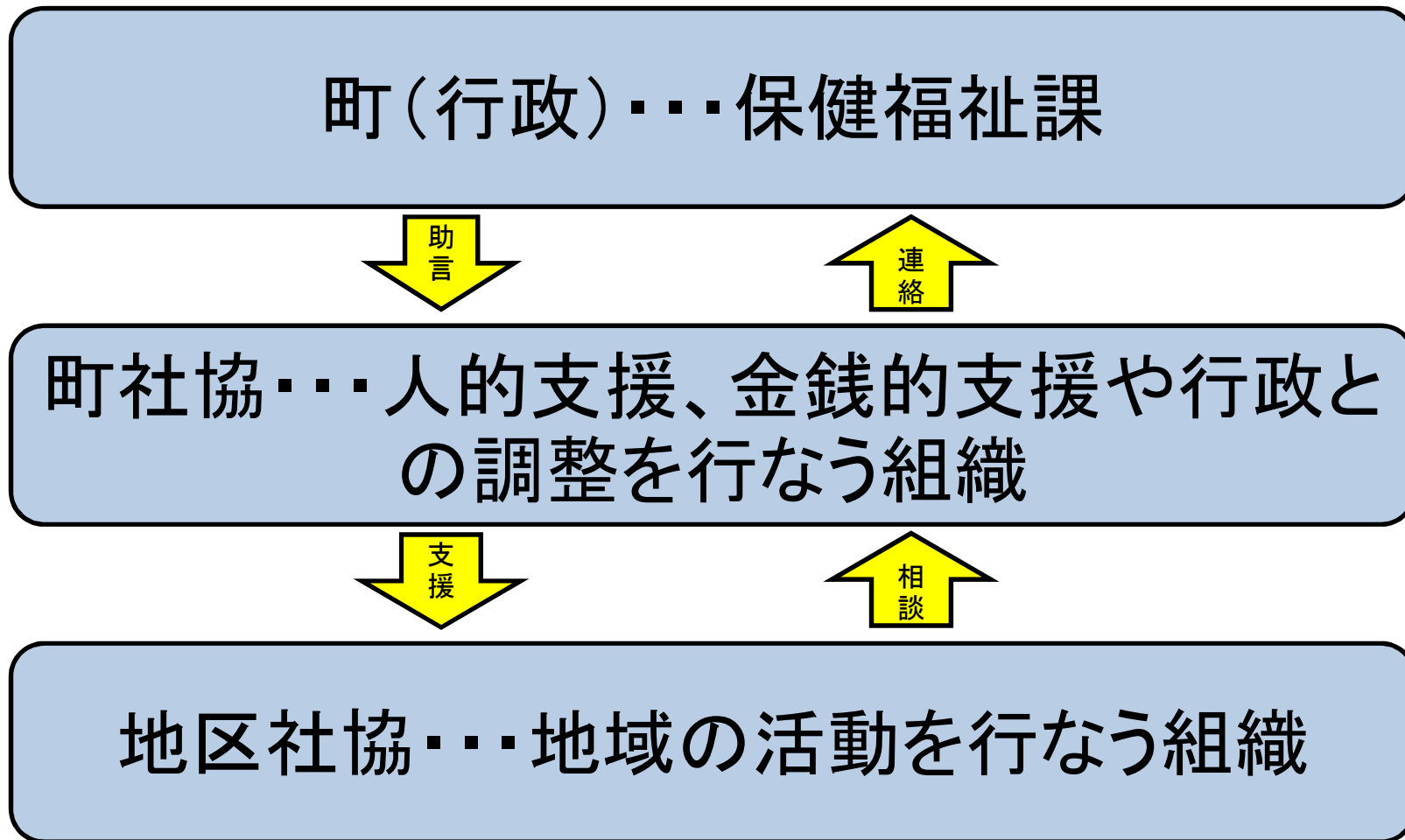
3-2.区と地区社協の役割②



3-3.地区社協の理想像



3-4.町と町社協、地区社協の役割分担



3-5.地区社協が町内に立ち上がった経過

○平成9年4月 **樋口区社協設立**

○平成13年 高齢者・生活弱者等の支援を目的に赤羽区で組織化の方向について研究。

○平成14年 「地域小福祉たすけあい活動」を目的に町地域福祉推進委員会が発足。

○平成15年2月 **赤羽地域社協設立**

3月 町地域福祉推進委員会で、地区社協の立ち上げについての議題が出される。

○平成16年5月 町地域福祉推進委員会にて背景や目的が示される。

○平成18年2月 介護保険改正に伴い、介護予防事業について町地域福祉推進委員会にて協議される。

○平成19年 **上辰野地区社協設立**

事例発表

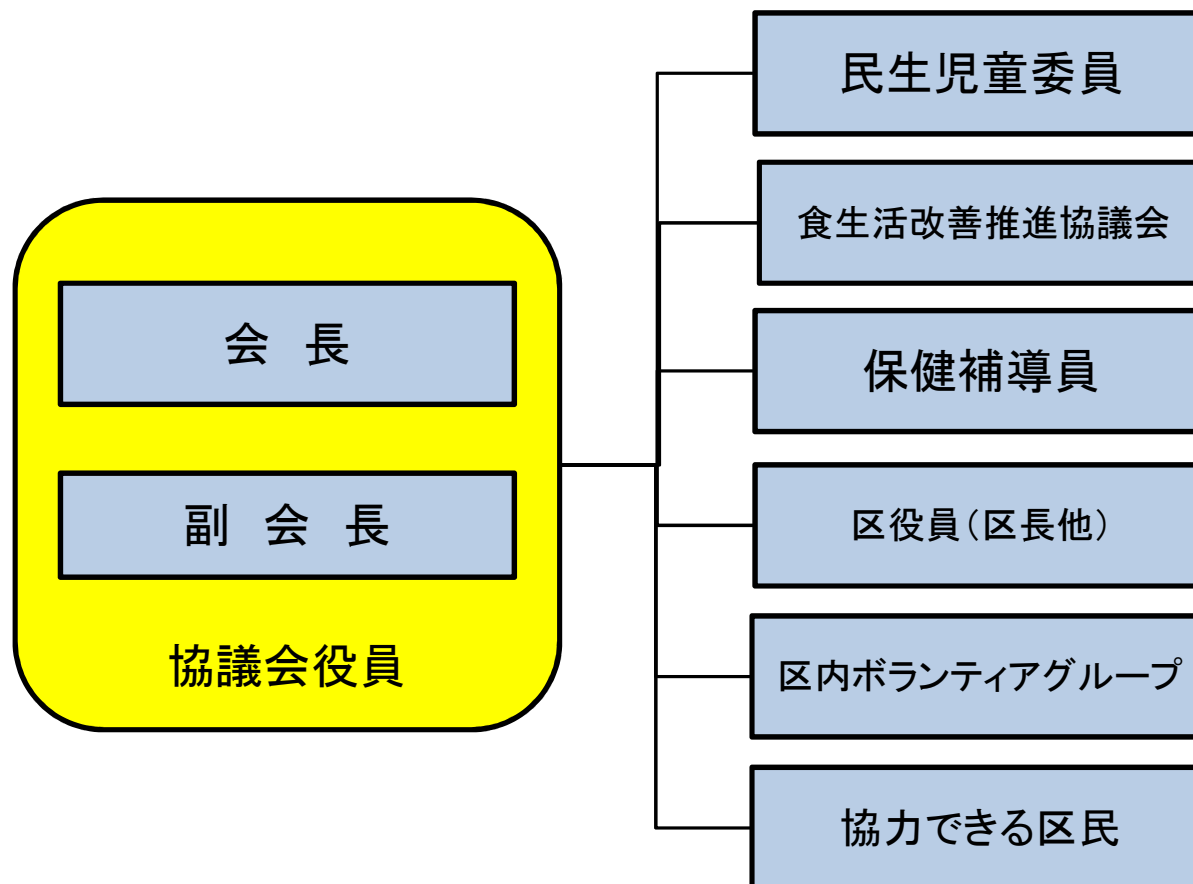
～ 上辰野地区社協 ～

組織化のきっかけ

○発議と賛同

- ・町からののはたらきかけもあり従来から地区社協を考えていたが実現できなかった。
⇒地区社協について不明確な部分があり実現には至らなかった。
- ・平成18年区制検討委員会(3年毎発足)より地区社協要望の答申(答申の1番項目)。
⇒平成19年度区初総会(4月)で立ち上げを承認。
- ・その後毎月の区会で設立に向けた手段等を検討していた。それに伴い区長を中心に設立委員会(11月)を発足した。
⇒地区社協平成19年12月発足(平成19年は自主防災組織の立上げやボランティアグループの組織化など事業が多い年)

上辰野区社協の構成と組織体制



上辰野区社協の年度計画

月	活動内容
4	隣組長さんへ支え合いマップ見直し説明 役員会・・・年度計画の策定 第1回社協委員会(初総会)
5	第1回 はつらつ会実施(介護予防事業)
6	第2回 はつらつ会実施
7	第3回 はつらつ会実施
8	防災訓練打ち合わせ会にて支え合いマップ見直し説明 第4回 はつらつ会実施
9	区敬老会 第5回 はつらつ会実施
10	第6回 はつらつ会実施
11	第7回 はつらつ会実施
12	第8回 はつらつ会実施
1	第9回 はつらつ会実施
2	役員選考委員会実施 第10回 はつらつ会実施
3	第11回 はつらつ会実施 第2回社協委員会(年度末総会)

活動の成果

○良かった点

- ・区でなく地区社協組織があったことにより支え合いマップが短期間で円滑に作成できた。
- ・高齢者の介護予防事業の運営を区に負担をかけず地区社協で行なえた。←食生活改善委員会が入りお昼提供に協力してくれた。
- ・毎月区政ニュースを出し、地区社協の活動について触れ、地区社協をPRしている。

○今後の改善点

- ・地区社協への理解が少なく関心がない。地区社協は介護予防事業だけだと住民は思っている。
- ・地区社協の活動への協力者は多いが、他の活動と重なってしまい運営が大変。固定化している。

4. 今後の課題

○住民を主体とした、組織作り体制の推進と構築。

○町関係課（保健福祉課・まちづくり政策課・町社会福祉協議会）と各区の連携強化。

・町社協としては、地区社協の連絡会を定期的に行なっていきたい。

○町民の声を聴き、住民の為の計画へ活かせる体制作りと実行性の高い計画作り。